

# CASBEE® あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト：CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社興明豊橋工場	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県豊橋市三弥町新大口1番6、字新水流2番10	構造	S造
用途地域	市街化調整区域 三弥工業団地地区計画	平均居住人員	60人
気候区分	7地域	年間使用時間	2,400時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2028年6月 予定	評価の実施日	2025年12月16日
敷地面積	44,501 m <sup>2</sup>	作成者	学建築設計 榊原 学
建築面積	15,623 m <sup>2</sup>	確認日	2025年12月16日
延床面積	15,930 m <sup>2</sup>	確認者	学建築設計 榊原 学

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100%

②建築物の取組み: 52%

③上記+②以外の: 52%

④上記+: 52%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.4**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.7

**LR のスコア = 3.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.6

### 3 重点項目

#### ①地球温暖化への配慮

4.9

#### ③敷地内の緑化

1.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) **13.4%**

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) **0.0%**

#### ②資源の有効活用

3.5

#### ④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料> なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
株式会社興明豊橋工場

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-	-	-	-
1.2 遮音				-	-	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	3.0	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	3.0	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	3.0	-	-
1.3 吸音				-	-	-	-	3.0	-	-
<b>2 温熱環境</b>										
2.1 室温制御				-	-	-	-	-	-	-
1 室温				3.0	-	-	-	3.0	-	-
2 外皮性能				3.0	-	-	-	3.0	-	-
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				3.0	-	-	-	3.0	-	-
2.3 空調方式				3.0	-	-	-	3.0	-	-
<b>3 光・視環境</b>										
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-	-	-
1 昼光率				3.0	-	-	-	3.0	-	-
2 方位別開口				-	-	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備				3.0	-	-	-	3.0	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-	-	-
1 昼光制御				3.0	-	-	-	3.0	-	-
3.3 照度				3.0	-	-	-	3.0	-	-
3.4 照明制御				3.0	-	-	-	3.0	-	-
<b>4 空気質環境</b>										
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質				3.0	-	-	-	3.0	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-	-	-
1 換気量				3.0	-	-	-	3.0	-	-
2 自然換気性能				3.0	-	-	-	3.0	-	-
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	-	3.0	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>										
<b>1 機能性</b>										
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-	-	-
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	3.0	-	-
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	-	3.0	-	-
3 バリアフリー計画		独自		3.0	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	-	3.0	-	-
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	-	-	-
3 内装計画				3.0	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				3.0	-	-	-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.5	3.0	0.52	-	-	-	3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.4	3.0	0.48	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.80	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				0.3	3.7	0.33	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②	耐酸被覆鋼板 耐用年数21年~30年	-	3.0	0.23	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			木毛セメント板 耐久年数21年以上	-	4.0	0.23	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	5.0	0.09	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔			硬質塩ビ管使用	-	5.0	0.15	-	-	-	-
2.4 信頼性				0.1	2.2	0.19	-	-	-	-
1 空調・換気設備				3.0	1.0	0.20	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
3 電気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法		②		3.0	1.0	0.20	-	-	-	-
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-

<b>3 対応性・更新性</b>			0.4	3.6	0.48	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				5.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	5.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.57		-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			独自③		1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		2.0	0.40		-	2.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				0.3	2.0	0.30		-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>					-				3.9
<b>LR1 エネルギー</b>					0.40				4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-		-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	4.0	0.13		-	4.0
3 設備システムの高効率化				3.0	5.0	0.63		-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.25		-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	-
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50		-	-
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50		-	-
集合住宅の評価				-	-	-		-	-
4.1 モニタリング				-	3.0	-		-	-
4.2 運用管理体制				-	3.0	-		-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					0.30				3.6
<b>1 水資源保護</b>				0.1	3.4	0.15		-	3.4
1.1 節水				3.0	4.0	0.40		-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67		-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33		-	-
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				0.6	4.0	0.63		-	4.0
2.1 材料使用量の削減					4.0	0.07		-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.25		-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					3.0	0.21		-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			② 独自		5.0	0.21		-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-		-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		5.0	0.25		-	-
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				0.2	3.0	0.22		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68		-	-
1 消火剤					-	-		-	-
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50		-	-
3 冷媒				3.0	3.0	0.50		-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>					0.30				3.6
1 地球温暖化への配慮			①		4.9	0.33		-	4.9
2 地域環境への配慮				0.3	3.1	0.33		-	3.1
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25		-	-
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50		-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.5	0.25		-	-
1 雨水排水負荷低減			独自		4.0	0.25		-	-
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25		-	-
3 交通負荷抑制			独自		5.0	0.25		-	-
4 廃棄物処理負荷抑制					2.0	0.25		-	-
<b>3 周辺環境への配慮</b>				0.3	2.8	0.33		-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-
1 騒音			独自		3.0	1.00		-	-
2 振動			独自		-	-		-	-
3 悪臭					-	-		-	-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-
1 風害の抑制					3.0	0.70		-	-
2 砂塵の抑制					1.0	-		-	-
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30		-	-
3.3 光害の抑制				0.2	2.3	0.20		-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					2.0	0.70		-	-
2 透光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30		-	-

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>4.9</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.9	0.10
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>3.5</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.21
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	4.0	0.19
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17
			外構緑化:13.4%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社興明豊橋工場

計画上の配慮事項	
総合	建築物の外部仕様は耐久性のある建材を使用し、より長く建築物を使い続けられるよう配慮した。敷地外周部に緑地を設け、一部に既設の緑地を残すことにより、植物の保全と創出に取り組んだ。敷地内に駐車場、駐輪場を設け、地域環境、周辺環境へ及ぼす影響を低減した。
Q1 室内環境	対象外。
Q2 サービス性能	耐用年数の長い外壁材、内装材を使用し、建物の長寿命化に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地外周部に緑地を設け、一部に既設の緑地を利用した。
LR1 エネルギー	工場の屋根に自然換気式ベンチレーターを設置し、省エネ化に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	水栓に節水コマを使用。大便器、小便器は節水型便器を使用。
LR3 敷地外環境	適切な量の自転車置場、駐車スペース、管理用車両、荷捌スペースを確保し、路上駐車を発生させないよう配慮した。また、敷地出入口は、車両が円滑にかつ安全に出入りできるように位置、形状を計画した。
その他	